

## 那智勝浦町の課題のまとめ

### 町の現状から(資料2)

---

- ☞ 少子高齢化は、今後も進み、さらに高齢者の高年齢化も進む見込みである。
- ☞ 認定率が増加する見込みである。
- ☞ 認知症高齢者は、高年齢化と比例して増加する見込みである。
- ☞ 要支援の認定者が多い。
- ☞ 高年齢化と比例して1人暮らし高齢者も増加する見込みである。

### 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査から(資料3)

---

- ☞ 高年齢になるほど1人暮らしが増えている(高年齢化と比例関係)
- ☞ 75歳を超えるとフレイルのリスク保有者が増加しており、特に運動器機能低下、閉じこもり傾向が顕著になっている。
- ☞ 要支援の認定者は、特に運動器機能低下、閉じこもり傾向、IADL 低下が顕著になっている。
- ☞ 75歳~80歳で自動車を運転できなくなるなど、移動に制限が生じる傾向がある。
- ☞ 認定を受けている人は、趣味や生きがいがない傾向がある。
- ☞ 通いの場などのグループ活動に参加できる人は多くおり、世話人になれる人も十分いる。
- ☞ 少子高齢化により、家族介護者のない人が増加すると介護サービスのニーズが高まる。
- ☞ 認知症との接点が少ないため、認知症への理解度が低いことが考えられる。
- ☞ 認知症に関する相談窓口を知らない人が多い。

### 在宅介護実態調査から(資料3)

---

- ☞ 介護度が重くなるにつれ、家族の支援が必要になるが、単身世帯では、家族からの支援を受けにくい状況である。
- ☞ 主な介護者では、配偶者や子が多い。
- ☞ 老々介護を行っている人が約3割と多い。
- ☞ 移動支援に対するニーズが高い。
- ☞ 入浴・洗身は、介護サービスの利用が多い。
- ☞ 介護者の3人に1人は、夜間の排泄の介護に不安を感じている。
- ☞ 金銭管理や生活面に必要な諸手続きは、家族が行うことが多い。
- ☞ 介護度が重くなると仕事を続けることが困難になる人がいる。
- ☞ 配食サービスには、一定のニーズがある。
- ☞ 認知症高齢者が増加することで「調理」や「見守り、声かけ」に対するニーズが高まっている。
- ☞ 認知症が進むことで施設等への入所・入居を検討する人が多い。
- ☞ 運動により予防できた傷病を抱えている人が多い。

- ☞ 主な介護者の約4割が働いているが、介護度が重くなるほど、働き方に影響が生じている。
- ☞ 働いている介護者の半数は、介護を続けていく上で問題を抱えている。

#### 前期計画の評価から(資料4)

---

- ☞ 介護予防の取組への参加者数が少ない。
- ☞ 多様な主体によるサービス事業の実施ができていない。
- ☞ 町の独自事業では、利用実績が無いか極端に少ない事業が多い。
- ☞ 医療と介護の連携を強化するため、専門職のさらなる連携強化が必要。
- ☞ 災害時・緊急時の支援体制の強化に関する取組が必要。
- ☞ 高齢者ドライバーの事故防止に関する取組が必要。
- ☞ 詐欺被害を未然に防ぐため関係機関との連携強化に関する取組が必要。
- ☞ 成年後見制度の利用促進、高齢者虐待への対策強化等が必要。
- ☞ 「那智勝浦町バリアフリー基本構想」に基づいたバリアフリーへの継続した取組が必要。
- ☞ 要介護者家族支援事業は、利用者が無いか極端に少なく精査が必要。
- ☞ いきいきサロンのグループ数は増加傾向にあるが、老人クラブの加入者数は減少傾向にある。社会参加の場の創出を図るため、通いの場の支援に関する取組が必要。
- ☞ シルバー人材センターやハローワークとの積極的な連携ができていないため、今後、具体的にどのように連携強化を図るか検討が必要。
- ☞ 認知症カフェの開催数が少なく、認知症初期集中支援チームの対応実績も少ない。認知症に関する取組が進んでいるとは言えない。
- ☞ 地域包括支援センターに保健師が未配置であることや、ケアマネジャーに対する支援等が十分ではなく課題である。
- ☞ 地域ケア推進会議の開催ができていない。
- ☞ 福祉用具購入・貸与点検については、点検が可能な職員を配置できなかったため未実施。